

# アムスルだより

No.46 2000年11月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



## 海の中のアパート

## -死サンゴ-

今年は、8個の台風が阿嘉島を巻き込みました。1995年から1999年までの台風の数は、それぞれ3個、5個、5個、2個、5個ですから、今年は台風の多かった年と言えるでしょう。台風には、海の水をかき混ぜて水温を下げたり、サンゴの上につもった汚れなどを強い波によってふき飛ばしてくれる働きがあると考えられています。しかし、もちろん台風はサンゴにとって良いことばかりではありません。みなさんもお存じのとおり、台風によってたくさんのサンゴがこわされ、バラバラの破片になることがあります。サンゴの破片は、ときには生き残ることもありますが、多くはそのまま死んでしまいます。白化や台風をはじめ、さまざまな原因で死んでしまったサンゴたちは、その後どうなるのでしょうか？今回は、死んだ後に残されたサンゴの死がいについてのお話です。

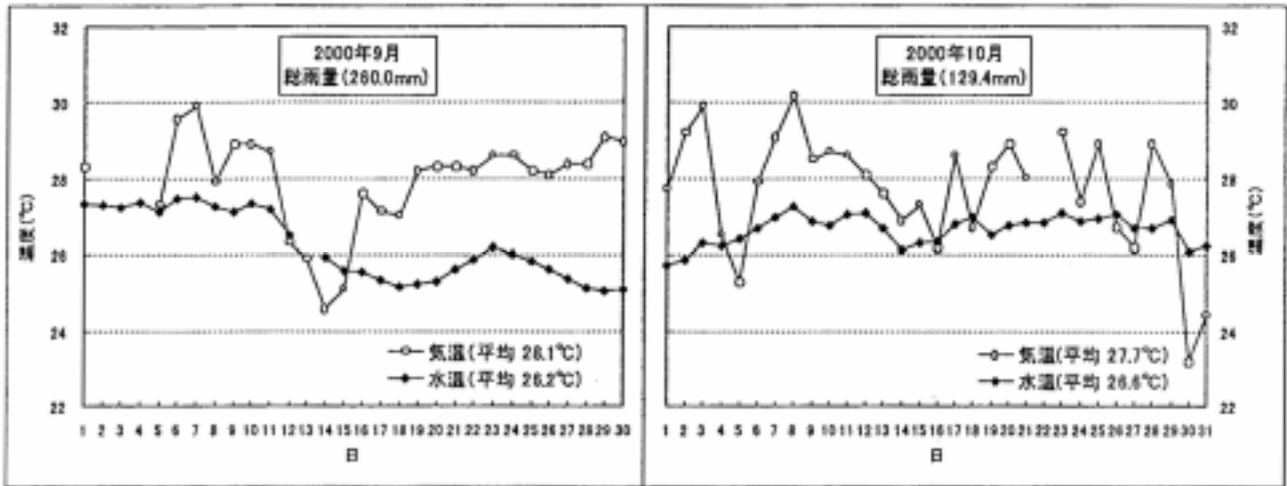
海岸には、真っ白で表面がけずられてすべすべになった死サンゴのかけらが、たくさん打ち上げられています。もちろん海

の中にもたくさん残っています。ところによっては、ふきだまりのようかけらの折り重なっているところや、岩にくっついたままの死がいもあります。けれども、これら海の中の死サンゴには、白い色のものはほとんどなく、ピンク色や紫色、くすんだ茶色など、汚れたようなものばかりです。死んで間もないサンゴの骨は真っ白な色をしているのですが、すぐに、海の中に住むたくさんの小さな生き物たちがその上にはりついてしまうので、1週間たらずで汚れてしまうのです。

その中でも、死サンゴの表面に見られるピンク色や紫色の部分は、ほとんどがサンゴモの仲間です。アムスルだより no.38でも紹介しましたが、サンゴモは海藻の仲間、つまり植物ですから、太陽の光を浴びて光合成を行い生長していきます。また、サンゴモは体の中に炭酸カルシウム(石灰分)をたくさん含んでいるので、とても固く、サンゴモが生長して覆おおうことによって、サンゴの死がいはより丈夫に補強されていき、ときにはバラバラのかけらがつなげられ、かたまりになったりします。

サンゴの死がいは、岩にくっついたままのものでもデコボコしていますが、かけらが積もることによっても、すき間の多い複

## 阿嘉新港での定点観測



雑な構造を形作ります。すき間が多いということは、それだけ表面の面積が大きいということで、それは他の生き物にとって、住みかの増える大切なことです。以前、深さ 15 cmの死がいのかたまりを調べてみたところ、上から見て 1cm<sup>2</sup> しかないところに 3.7 cm<sup>2</sup> ものサンゴモ類が住んでいました。海底の広さは限られていますが、死サンゴの骨格が立体的で複雑な形になることによって、その限られた広さの中により大きな空間を作りだしているのです。そして、サンゴモなどの海藻ばかりではなく、巻き貝の仲間やホシズナの仲間、トビムシ、コシオリエビ、カニや魚の子供などが、外敵から身を守る絶好の隠れ家として、その空間の中でくらすしています。サンゴは生きてるときだけでなく、死んだその後もたくさんの生き物にとって大なる存在なのです。

### リーフチェック 2000 結果報告

今年で3回目のリーフチェックが9月27、28日に座間味の新田浜と阿嘉島のニシハマで行われました。昨年と比べると、魚類や貝類などで増減がみられたものの、全体的には両地点とも健康なサンゴ礁とってよい結果でした。来年は、特に阿嘉島のみなさんの参加を期待しています。

## 阿嘉島の海より

### -国際サンゴ礁学会-

先月の下旬にインドネシアのバリ島で国際サンゴ礁学会が行われ、世界各国から約1500名のサンゴ礁研究者、行政や自然保護の関係者が集まりました。アムスルからも岩尾、谷口、下池が参加して、研究成果を発表しました。学会では、最近のサンゴ礁の研究動向だけでなく、水産業、観光業、監視方法、地球温暖化の影響などについても活発な議論が交わされました。

そして、次回4年後(2004年)の国際サンゴ礁学会は、沖縄で開催されることが決定しました。このときに議論されるテーマに、「人間 - サンゴ礁共存系」があります。これは、現在のサンゴ礁は人間生活の影響を無視できなくなっており、人間も含めてサンゴ礁を捉えなおし、この新しい生態系を安定なものにするにはどうしたらよいか考えていこうというものです。このテーマは、サンゴ礁の海に生きている私たち自身が直接関わっている問題なので、ぜひみなさんからもいろんな意見をいただき、一緒に考えて実行していけたらいいなあと思います。そして、私たちとサンゴ礁とがバランス良く共生しているところを世界にアピールしましょう。